

道徳通信かがわ

第31号

平成30年6月28日(木)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

6月14日、高松市立太田南小学校で道徳科自主研究会が開かれました。授業者は有馬葉子先生、教材は1年生「おじいちゃんの たんざく」(学研)でした。教材は、およそ次のような内容です。

「ロボット」「サッカーボール」「おもちゃ」…。7月7日、まきおは何枚もの短冊に、自分の願いを書いていました。そこにお母さんがやってきて、「これは、おじいちゃんが大事にとっておいてくれた短冊よ。」と、何枚かの短冊をまきおに見せました。

「まきお 0さい げんきに そだちますように」「まきお 1さい じょうずにあるけますように」
…「まきお 6さい らいねんから たのしく しょうがっこうに かよえますように」。

押し付けない道徳 —研究推進校 公開授業から—

授業の終末で、子どもたちはそれぞれ自分の家族からの短冊を手にししました。そして、封筒を開けてそれを読み始めました。その時、一人の女の子が、感極まって涙を流し始めました。

この女の子が、これほどまでに気持ちが高まったのはなぜなのでしょう。授業をさかのぼって考えてみました。

まきおがおじいちゃんの短冊を読んだ場面で、有馬先生は、「笑顔」「びっくり顔」「泣き顔」のまきおの挿絵を示し、「おじいちゃんの短冊を読んで、まきおはどんなことを考えたでしょう」と尋ねました。「泣き顔」は、教科書の挿絵にはありません。しかし、何人かの子どもは、「泣き顔」を選びました。冒頭の女の子も、「泣き顔」を選んだ一人でした。

女の子は、発言しました。

「自分のことを考えてくれているから。」

まだ入学して2か月余りの1年生です。自分の心の中を表現する十分な言葉をもち合わせていません。「ぼくは、自分のほしい物ばかり短冊に書いていたのに、おじいちゃんは、自分のことなんか考えずに、こんなにもぼくのことを考えてくれていた。」と自省の気持ちを伝えようとしていたのでしょうか。しかし、ここでは女の子の心の中を安易に想像することは避けたいと思います。

ただ、他の挿絵ではおそらく現れなかつたらう女の子の思いが、ここにありました。そして、学習が進むにつれ、女の子の心の中に占める「家族」の割合がしだいに増し、授業の終末で家族からの手紙を読んで、とうとうその気持ちがあふれ出したのでしょうか。



【家族からの「短冊」を手】

「押し付け道徳はだめ」とよく言われています。もし笑顔のまきおだけを提示して、「このときのまきおさんは…」と問うていたら、知らず知らずのうちに、まきおの心の中を一つに押しつけてしまっていたかもしれません。

子どものありのままの思いを大切に引き出そう、そして受け止めようとする授業者の姿勢が、この日のような道徳の学びを生むのでしょうか。